

編集後記

今月号で第3巻もその半ばに達した。もっと早く取りあげるべき問題であったかもしれない心理の問題の特集をお送りすることになる。ほぼ40頁におよぶ、各氏の論文に加え、講座としての心理テストもあり、この号は名実共に心理の特集といえよう。リハビリテーションの領域における心理の重要性は、誰でもが認めているにもかかわらず、臨床の場での連係は必ずしも十分であったとはいえないのではなかろうか。この意味で、この特集の各氏の論文がリハビリテーションの各専門分野に多くの刺激を与えてくれるものと感じるのは筆者だけではないであろう。特に、荻島氏も永井氏も、患者ばかりでなく、職員に対しての心理的配慮がわが国において欠けていることを指摘している。このことに関して、D. Wilson 氏も、リハビリテーションにおける計画の優先順位として、第2に人の問題をあげているのも、何か共通した点を指摘されているようで興味深い。この座談会は職業的リハビリテーションのあり方と題されてはいる

が、保護施策の問題点から、評価のあり方、重度者の職業的リハビリテーションに至る幅広いものとなった。

また、小野氏の巻頭言も、リハビリテーションの問題が社会全体の中でどうとらえられるべきかという点を考えねばならない時期に入っていることを示しているように思われる。

なお、特集の中に一頁程度の随筆風な短文を挿入する試みは「ファシリテーション・テクニック」「視覚障害」などにつづいて4回目である。すでに一頁講座は、この雑誌の中にとけこんだような気がするが、特集の中の短文はいかがであろうか。この特集の短文は、特に考えさせられるものが多かったように思うが、読者諸兄の御意見も伺いたいものである。

最後になったが、この号の特集については、国立身体障害センターの永井昌夫氏の御助言に負うところ大なるものがある。記して謝意を表する次第である。(大川 嗣雄)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
荻 島 秀 男
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
青 山 孝
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 寿 栄 夫
小 野 啓 郎
河 邨 文 一 郎
金 久 卓 也
兼 松 英 夫
五 味 重 春
沢 村 誠 志
杉 山 尚
中 村 裕
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
平 方 義 信
三 島 博 信
山 内 裕 雄
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
遠 藤 千 恵 子
小 川 孟
加 藤 一 郎
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
陳 慧 玉
野 本 卓

(以上五十順)
(順、敬称略)

(細田、田村、鹿島)

次号予告(第3巻第7号)

特集=身障者と移動手段

身障者の自動車運転特殊装置……………	国立身障センター	中 村 雄
身体障害者と移動——身障者用自動車……………	国立身障センター	永 井 昌 夫
日本の免許制度について……………	国立身障センター	橋 倉 一 裕・他
身障者のための地下鉄のシステム……………	都老研	陳 慧 玉
現用電動車椅子に関する考察……………	都補装具研	加 倉 井 周 一・他
座談会：車椅子の JIS 規格の問題点……………	労災義肢センター	土 屋 和 夫・他
講 座 心理テスト(4)……………	横浜国大	中 司 利 一